

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

自発的交換による価値創造の原則は簡単明瞭である。自発的なソウホウの合意のうえで交換されるためには、交換に応じるソウホウにとつて、交換前よりも交換後の状態の方が好ましいものでなければならず、^Aその差がまさに交換によって得られた価値にほかならない。話に現れる取引を振り返ると、断ろうと思えば断れるものばかりだったから、話の中でももちろんこの原則は成り立つ。わらしべを家に変えた男が大いに利益を得たことは言うまでもないが、ほかの人たちも利を得ていることを忘れてはならない。

子供にとってはミカンよりはわらしべのおもちやのほうがはるかに魅力的なものだったから、ただのミカンでとても面白いものを手に入れたと喜んだはずである。反物商人も、売れるかどうかから余分な着物よりは、ミカンでのどをウルオスほうがはるかに良かった。死にかけている馬を手放して新しい着物をもらった人は、良い取引をしたと感じたはずだ。旅に出なければならない人にとっては、家よりも馬のほうがはるかに貴重なものだったはずである。

このような取引からの利益は、物々交換の世の中ゆえに起こることではなく、金銭を使う現代経済でも同じことであることにも注意しておきたい。たとえば、男は千円でわらしべを売り、その千円でミカンを買ったと話を書き換えればよい。つまり、^B特定の取引に貨幣が媒介するかどうかということ自体は問題ではないのだ。

^Cより本質的なのは、専門用語で言う「市場の非完備性」ということである。つまり、登場する人々がそろって共通に取引できる場が備わっていないという点だ。仮に、物語に登場する人々が一堂に会して、さてお互いに物を売買しようということになったら、わらしべを持った男が屋敷を手にする可能性はほとんどない。おそらくは、屋敷を持っている人が、馬を買収すると提案したであろうし、そのほかさまざまなシナリオを考えても、なかなかわらしべには出番が回ってこないのである。

したがって、わらしべを持った男が大もうけできたのは、これらの人の間では直接に取引できる場が完備しておらず、また取引を媒介できる人物が彼しかなかったからである。言い換えれば、^Dこれらの人たちの間に眠る経済学的価値を引き出すことができるのは、わらしべの男しかなかったからだ。そういう役割を、二ナった結果、男はもうけるべくしてもうけたのである。

問一 二重傍線部 a、c を、それぞれ漢字に直せ。(3点×3) 知

問二 傍線部 A とは、どのような差を指しているか。十字程度で答えよ。(10点) 思

問三 傍線部 B のように言えるのはなぜか。最も適当なものを、次から選べ。(10点) 思

ア 千円でわらしべを売り、その千円でミカンを買収取ったから。

イ 貨幣が媒介しないと、取引が不完全なものになるから。

ウ 物々交換の世の中も金銭を使う現代も同じ社会だから。

エ 重要なのは何らかの取引によって利益を得たことだから。

問四 傍線部 C とあるが、何についての「本質」なのか。最も適当なものを、次から選べ。(6点) 思

ア 貨幣 イ 物々交換 ウ 金銭 エ 取引

問五 傍線部 D とは、どのようなものか。最も適当なものを、次から選べ。(15点) 思

ア その場では取引できない人たちであっても、機会があれば得ることができるような利益。

イ 一堂に会して取引したくてもできない人たちが、勤労すること得られる利益。

ウ 物語に登場する人々が、わらしべを持った男との取引によって得られるはずだった利益。

エ 市場で取引をしたら出番が回ってこない人たちでも、工夫によって得ることができる利益。

問一	a				
問二					
問三					
問四					
問五				10	

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

それでは、男がそのような役回りを運だけで手に入れたのだろうか。私はそうは思わない。なぜなら、話の中で男は少なくとも二度にわたり、無視できない重要な経済活動をしているからだ。

第一に、^Aわらしべにアブを結びつけたというところだ。確かにわらしべとアブはたまたまタダで手に入ったものかもしれないが、それらを結びつけたことで男はおもちゃを生産したのである。たとえ原価がゼロであっても、人を喜ばせる創造的なアイデアに対価が支払われることに何らの不都合はないはずである。

第二に、^B馬を引き取ったところである。馬が息を吹き返したのは確かに幸運であったが、引き取る時点では倒れていて、死にそうであったということが見逃せない要点である。馬に慣れた武士が見放した馬であるから、馬が助からない可能性はあったはずで、しからば男もこれを考慮に入れて交換に応じたはずなのである。言い換えれば、男は馬が死ぬかもしれないというリスクごと馬を買い取ったのだ。すなわち¹これは成功するかしないかわからない、リスクの大きい事業に投資をしたことと同じである。リスクをとってなされた投資の成果を、ギョウウジユすることと、勞せず富を得ることに大きな差がある。

さて、ミカンと反物については、男は特段の工夫もなく右から左に取引してもうけたと見ることはできる。しかし²これも、何か特殊な出来事が起こったというわけではない。畑で採れた余ったミカンを街中までトラックで運び、道行く人に売ると本質的には同じことだ。ここでは、欲している人の元に物を動かすということは、それだけで立派な経済活動であるということが学ばれるべきなのである。つまり、運送業や小売業がなぜ我々の経済の中で大切な役割を占めているのかを説明する、格好の材料が提供されているのだ。

わらしべを持った男には、もちろん運もあった。しかしより大切なのは、男は他人を喜ばすという正当な経済活動を営んだからこそ、利益を積み上げて^B「フウキを得ることができた」ということだ。^C「こ」が「わらしべ長者」にて味わうべき点なのである。

思うに、「わらしべ長者」にある種の^D「ケンオ感」ともなう原因は、^E特定の個人に話の焦点が当たっているためではないか。つまり、そのほかの人たちが、男との取引の結果どれだけ豊かになったのかが書き込まれていないために、男だけ^F「トツシユツして幸運であり、何かあくどい事をしたかのように見えてしまうのだ。

問一 二重傍線部 a～d を、それぞれ漢字に直せ。(3点×4) 知

問二 波線部 1・2 の指示内容として最も適当なものを、それぞれ次から選べ。(5点×2) 思

1 ア 馬が息を吹き返したこと。

イ 馬の価値を見抜いたこと。

ウ 死ぬかもしれないというリスクごと馬を買い取ったこと。

エ 馬が助からないと考慮したこと。

2 ア 畑で採れた余ったミカンを街中まで運んだこと。

イ 男が特段の工夫をしなかったこと。

ウ 反物と馬を交換したこと。

エ ミカンと反物を取引してもうけたこと。

問三 傍線部 A・B が「経済活動」とされるのはなぜか。A は十字、B は九字の語句を、解答欄に合うように本文中からそれぞれ抜き出せ。

(10点×2) 思

問四 傍線部 C の具体的な説明として最も適当なものを、次から選べ。(8点) 思

ア 「わらしべ長者」の男の幸運だけが描かれていること。

イ 「わらしべ長者」の登場人物だけ豊かになったこと。

ウ 「わらしべ長者」という人物のあくどさが描かれていること。

エ 「わらしべ長者」の男の生き方が特にユニークだったこと。

問三		問一
B	A	a
		b
		c
	¹⁰ おもちゃを生産したから。	
		d
問四		問二
に対する投資と同じことだから。		1
		2

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

わらしべを持った男には、もちろん運もあった。しかしより大切なのは、男は他人を喜ばすという正当な経済活動を営んだからこそ、利益を積み上げて富貴を得ることができたということだ。ここが「わらしべ長者」にて味わうべき点なのである。

思うに、「わらしべ長者」にある種の嫌悪感がともなう原因は、特定の個人に話の焦点が当たっているためではないか。つまり、そのほかの人たちが、男との取引の結果どれだけ豊かになったのかが書き込まれていないために、男だけ突出して幸運であり、何かあくどい事をしたかのように見えてしまうのだ。

たとえば、わらしべを受け取った子供が、少年時代に体験したアブのおもちや遊びのアイディアをヒントにして、大人になって玩具メーカーを立ち上げ、末は東証一部上場の大企業にまで成長するところまで話が続いていたら、わらしべ男の生き方を非難する人は少なからうと思う。

実際、我々はだれしも毎日何らかの労力をさいては、自分が作り出したものではないものを手に入れて、少しずつ利益を積み重ねるという、わらしべ長者的な生活を営んでいるのである。差があるとすれば、それは一度の取引で得られるもうけの程度と質にある。

この点についても、わらしべ男が長者になるためにわずか四回の取引しか要さなかったのは、昔話は簡潔明瞭でなければならないという制約の産物と見るべきであり、これをして彼が度を越した幸運の持ち主だとみなすべきではないと私は考える。もっと細かな取引を繰り返して利益を積み重ね、そして結果として一国一城の主になったとしたら、それはまさに地道なギンロウの美徳の結果として、賞賛されるべきことではないだろうか。

「わらしべ長者」は日本独特の話ではない。世界各国にそれに似た昔話があり、そこにB経済学的な考え方の普遍性を私は感じるのである。私の特に好きなのはヒマラヤの国ブータンで語られる話だ。

ある男が畑をもタガヤしていたら、宝石が出てきた。すると宝石と馬を交換してほしいという人が現れたので、宝石に興味のなかった男は宝石を手放して馬を得た。次に馬が牛に代わり、そして羊になった。そのような取引を繰り返しているうちに、男の持っているものは鳥一羽になった。

すると、その鳥が欲しいけれども、交換するものが何もない。自分の知っている歌の一つ教えてあげるから、鳥をくれないかという人がいたので、男は喜んで鳥と歌を引き換えにした。そして男は歌を口ずさみつつ、幸せな顔をして立ち去って行った。

経済学の。リクツでは、この男も利益を得たはずだし、実際そうだろう。こういう人物こそ、人生で本当に大きな利益を得られるものではないかと、私は思う。

問一 二重傍線部 a、c を、それぞれ漢字に直せ。(3点×3) 知

問二 傍線部 A とは、どういう点か。最も適当なものを、次から選べ。(11点) 思

A 我々は多少の差はあれ、だれしもわらしべ長者的な生活を営んでいる点。

イ 「わらしべ長者」のような昔話は簡潔明瞭でなければならない制約がある点。

ウ 人によって一度の取引で得られるもうけの程度と質に差がある点。

E わらしべ男がわずかな取引で利益を得た幸運の持ち主だと賞賛される点。

問三 傍線部 B について説明した次の文の空欄に入る二字の語を、それぞれ本文中から抜き出せ。(5点×3) 思

何らかの 1 によって、双方が 2 を得て 1 前よりも 3 になるということ。

問四 筆者の主張に合致するものを、次から一つ選べ。(15点) 思

A 経済学的な原則に則った生活を送ることができれば幸福になることができる。

イ 現実問題として経済的に豊かになるためにはある程度幸運である必要がある。

ウ ブータンの話の男が利益を得るためには、経済学的な知識が必要であった。

E 形はどうあれ、他人を喜ばすことで利益を得ることは正当な経済活動である。

問五 次は、本文についての会話文である。空欄に入る語を考えて答えよ。主

生徒 A 現代社会で物を売買する場合を考えると、みな利益を得ているようにも思うけど、筆者の言う「取引における利益」とは金銭的な利益のことだけを指すのではないよね。

生徒 B 新聞で読んだのだけれど、経済的に困っている人を支援する目的で、物々交換をするプロジェクトがあるそうだよ。プロジェクトの担当者が述べていた、「物々交換によって、人と人とのつながりが生まれたり、それを実感できたりすることにも意味がある」という話が印象的だったな。

生徒 A 交換によって「」を重視しているという点で筆者の考え方に通じるね。

問一	a
1	
2	
3	
問四	c
問五	問二

「わらしべ長者」の経済学 基礎問題

問一 a 興味 b 明瞭 c 魅力（3点×3）

問二 I イ II ア III 才（5点×3）

問三 ウ（10点）

問四 自発的（8点）

問五 自発的交換による価値創造の原則（8点）

「わらしべ長者」の経済学 標準問題1

問一 a 双方 b 潤 c 担（3点×3）

問二 交換前と交換後の状態の差（12字）（10点）

問三 エ（10点）

問四 エ（6点）

問五 ア（15点）

「わらしべ長者」の経済学 標準問題2

問一 a 享受 b 富貴 c 嫌悪 d 突出（3点×4）

問二 1 ウ 2 エ（5点×2）

問三 A 人を喜ばせる創造的な（おもちゃを生産したから）。 B リスクの大きい事業（に対する投資と同じことだから。）（10点×2）

問四 ア（8点）

「わらしべ長者」の経済学 発展問題

問一 a 勤労 b 耕 c 理屈（3点×3）

問二 ウ（11点）

問三 1 取引 * 「交換」も可。 2 利益

3 幸せ（5点×3）

問四 エ（15点）

問五 解答省略